

平成13年度 決算報告

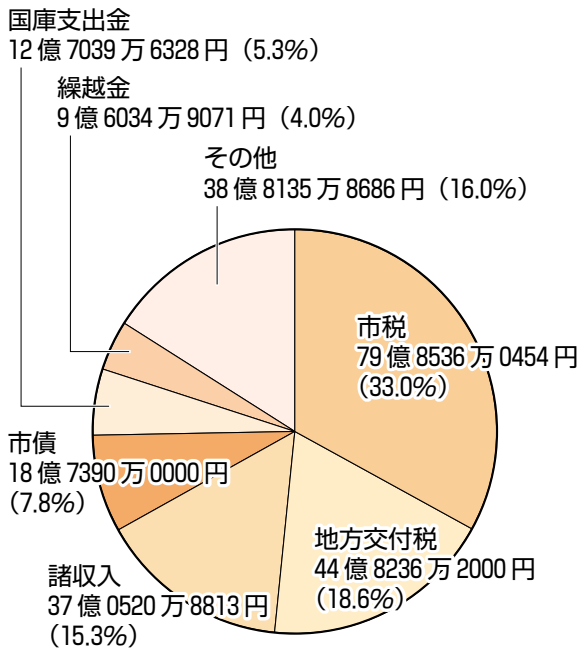
市が使ったお金です

一般会計

歳入

平成13年度の一般会計・特別会計・企業会計の決算が、第6回市議会定例会で認定されました。平成13年度には、特に「活力の創出」の実現に向け「人口増対策」に重点を置いた予算を執行しました。これからのまちづくりのため、市がどのようにお金を使ったのかをお知らせします。

一般会計歳入の内訳



● 歳入 241億5893万5352円

区分	決算額	構成比
市税	79億8536万0454円	33.0%
地方交付税	44億8236万2000円	18.6%
諸収入	37億0520万8813円	15.3%
市債	18億7390万0000円	7.8%
国庫支出金	12億7039万6328円	5.3%
繰越金	9億6034万9071円	4.0%
その他	38億8135万8686円	16.0%

一般会計は、実質収支（事業などの進み具合によって、次の年へ予算を持ち越す繰越金を差し引いた額）で6億3713万円の黒字となりました。

これは、厳しい経済情勢の中で事業の選択、経費の節減などに市民のみなさんごご理解ご協力をいただいた結果だといえます。

歳入決算額（市へ入ったお金の合計）は、241億5893万5352円で、前年に比べ5億9725万7398円、2.5%の増となりました。

◆市税

歳入のトップを占める市税は、最も重要な財源です。

市税には個人・法人市民税、固定資産税、軽自動車税、市たばこ税、入湯税、都市計画税があります。

平成13年度は、法人市民税の減少がありました。個人市民税、固定資産税、軽自動車税の増加により前年度に比べ3157万9344円0.4%の増となりました。

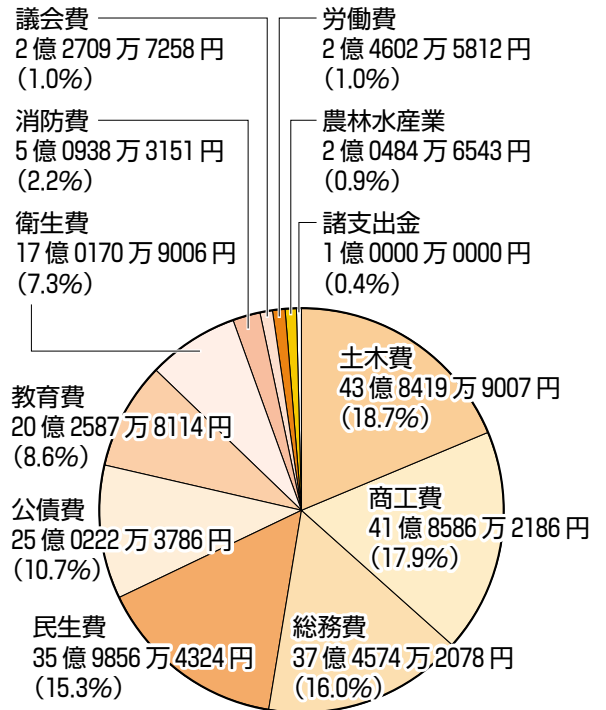
一世帯当たりの個人市民税負担額は、13万4179円でした。（平成14年4月1日現在の19,741世帯で決算額を割って計算）



『テクノプラザおかや』
産業振興の拠点施設として、産学官連携による新技術・新製品の開発、熟練技術の伝承、人材育成、受発注体制の強化等を支援するため今年6月にオープンしました。

区分	決算額	構成比
土木費	43億8419万9007円	18.7%
商工費	41億8586万2186円	17.9%
総務費	37億4574万2078円	16.0%
民生費	35億9856万4324円	15.3%
公債費	25億0222万3786円	10.7%
教育費	20億2587万8114円	8.6%
衛生費	17億0170万9006円	7.3%
消防費	5億0938万3151円	2.2%
議会費	2億2709万7258円	1.0%
労働費	2億4602万5812円	1.0%
農林水産業費	2億0484万6543円	0.9%
諸支出金	1億0000万0000円	0.4%

一般会計歳出の内訳



● 歳出 234億3153万1265円

◆ 地方交付税

市税に次いで構成比の多い地方交付税は、国から交付されるお金で、使道が制限されていません。額は、その自治体の財政力によって決められます。

前年度に比べ7億3425万5000円の減となりました。

◆ 国庫支出金

土地区画整理事業などの特定の事業に対して、国から補助されるお金です。前年度に比べ、1億9341万6072円の減となりました。

◆ 市債

建設事業などで多額の財源を必要とするとき、一定のルールのもとに借り入れる重要な財源です。道路や下水道などの施設、学校や福祉施設などの建物は長い期間の利用ができますが、今、利用する人ばかりでなく、将来使う人々へも負担を求めることで、世代間の負担の公平化が図られるというのが、市債の基本的な考え方です。

平成13年度の市債については、道路整備事業等を行い、総額では前年度に比べ1億6230万円の減



となりました。

なお、歳出における公債費は、各年の市債を年次計画に従って返している額のことです。

今までに市が借入れた額の累計となる平成13年度末の市債残高は、24億5268万円となります。ただし、この内の約53%は、地方交付税として財源が補てんされる有利な借り入れで、他にも国の支出金などで補てんされているものなど、これからの負担が苦しくならないように努めています。

平成13年度 主な施策事業

(金額は1万円未満四捨五入)

【土木費】

◇道路新設改良事業	10億8,840万円
◇岡谷駅南区画整理事業	5億6,830万円
◇都市計画道路整備事業	4億9,196万円

【総務費】

◇岡谷市役所岡谷駅前出張所開設事業	558万円
◇長地住居表示整備事業	4,855万円
◇戸籍電算化事業	7,400万円

【民生費】

◇3歳以上の第3子以降保育料無料化事業	5,092万円
◇社会福祉施設等整備補助事業	1億1,322万円

【衛生費】

◇不妊治療助成事業	232万円
-----------	-------

【商工費】

◇シルキーバス運行事業	2,265万円
◇テクノプラザおかや整備事業	8億9,135万円
◇中小企業金融対策事業	29億0,954万円

【教育費】

◇小中学校校舎施設整備事業 (非常通報設備、学校照明設備改修工事等)	3億4,448万円
◇私立幼稚園就園助成事業	1,636万円

【消防費】

◇消防施設整備事業	3,330万円
-----------	---------

【農林水産業費】

◇農道水路・林道整備事業	3,025万円
--------------	---------



都市計画道路今井線が築造され、今年11月中に一部供用開始(220m)になります。



ララオカヤ1階に岡谷駅前出張所を開設し、勤め帰りや土・日・祝日に住民票などを交付できるようになりました。



シルキーバスが既存の2路線に加え、新たに長地線、川岸線の2路線を運行開始しました。

歳出

歳出決算額(市が使ったお金の合計)は、234億3153万1265円で、前年度に比べ8億3020万2382円、3.7%の増となりました。市民一人当たりで使われた平均額は、41万9491円となりました。主な施策事業は上記のとおりです。

◆基金

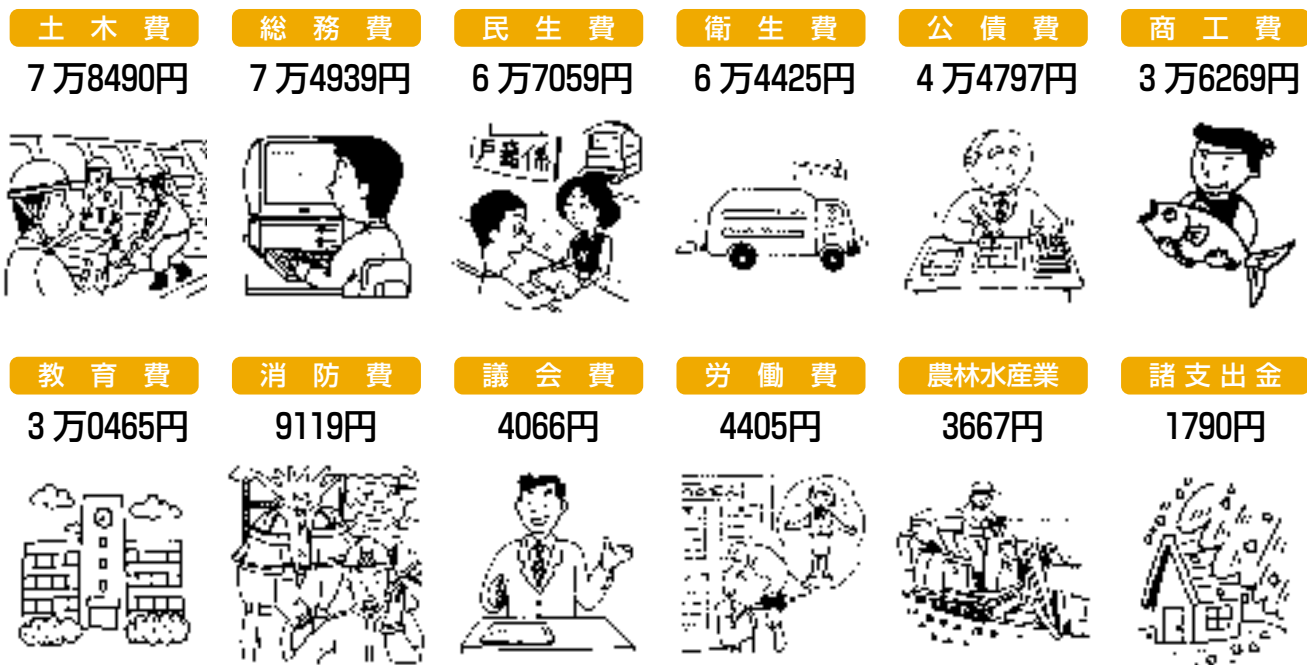
市が大きな事業を行うときは、単年度にばく大な資金が必要となります。しかし、市の予算の中で、市民生活を守るための経費を削つてまで、その事業に多額の投資をすることはできません。市民生活に影響を及ぼさないように大きな事業を行なうための蓄えが基金です。

基金は、市が将来を展望した個性あるまちづくりを進めるために、計画的に積み立てられています。基金の設置は、市の条例により定められており、その目的以外に使うことはできません。

現在、岡谷市には17種類の基金があり、平成13年度決算では、総額77億7807万6千円余りが積み立てられています。

市民一人当りに使われたお金 (一般会計歳出) 41万9491円

参考：市税一人当たり14万2961円



特別会計

H14.4.1現在

人口	55,857人
世帯数	19,741世帯

会計名	収入済額	支出済額
国民健康保険事業	36億6662万5289円	34億0041万8559円
地域開発事業	5億3884万2516円	14億7403万2076円
公団分収造林事業	2897万6017円	2830万7961円
交通災害共済事業	5443万6151円	1344万0324円
霊園事業	1億2560万6907円	1億1595万1062円
老人保健事業	52億6840万2403円	52億3437万4612円
温泉事業	2557万6447円	822万7678円
訪問看護事業	6488万7788円	3046万3999円
駐車場事業	1億3863万3906円	5426万5405円
介護保険事業	21億4848万2351円	19億8781万6912円

主な基金の種類と積立金

名称	金額
財政調整基金	11億1795万3943円
社会福祉施設整備基金	8648万0591円
市営住宅整備基金	3億8412万8296円
工業技術振興基金	2億5895万1438円
ふるさとまちづくり基金	22億2863万6425円
減債基金	13億2738万5893円
文化会館事業基金	4億4602万6747円
地域福祉基金	3億7862万3849円
生涯学習館・総合福祉センター複合施設建設基金	10億4381万8123円

企業会計 (収益的収入および支出)

会計名	収入額	支出額
岡谷病院事業	41億8713万2024円	41億4242万4647円
塩嶺病院事業	38億2746万1088円	37億9018万4875円
水道事業	10億7189万3889円	10億0985万2992円
下水道事業	21億6113万4886円	19億2696万9590円